

平成26年6月9日

MJIIT で「これからのバイオマス高度利用」に関するシンポジウム開催

平成26年6月6日、MJIIT（マレーシア・日本国際工科院）で京都大学、中央大学、筑波大学、芝浦工業大学が連携で主催し、松井三郎京都大学名誉教授、中央大学松下潤教授による特別講演がおこなわれ、その後、個別に研究討論会が実施されました。参加者は40名程でした。はじめに松下潤教授からの講演内容は、日本における有機性廃棄物、とくに人を含む動物糞尿の古来からの効果的な活用方法に始まり、先端技術を導入した亜臨界水反応による多目的物質変換であり、もう一つのテーマは、水環境汚染に極めて重要な流域管理の基本的手法についてでした。一方、松井三郎先生の講演は、化学薬品を極力使用しない農作物や食品などに付加価値を付与するための微生物の効果的利用方法、とくに乳酸菌の食品素材への利活用を基本から応用いたるまで丁寧に説明を頂きました。個別の研究討論会では、マレーシア側の研究者、学生との白熱した討論及び研究指導が実際に行われ、有意義な成果が得られました。今後、実際にジョイントスーパービジョン（共同指導）で7月下旬から筑波大学生命環境科学研究科（日本側：甲斐田直子助教、内海真生准教授、岩本浩二准教授、足立泰久教授、張振亜教授、鈴木石根教授、白岩善博教授 MJIIT 側：原啓文准教授、後藤雅史教授、杉浦則夫特命教授ら）で指導を受ける修士の学生4名、さらに後発で指導が予定されている数名の学生の大きな弾みになり、マレーシアへの教育・研究の実質化が大いに期待されます。



前列左：芝浦工業大学客員准教授橘雅彦、UTM ファドヒル准教授、松下潤中央大学教授、ズリアティ・ザカリア MJIIT 学科長、松井三郎京都大学名誉教授、MJIIT 白樫正高教授、UTM シュリー准教授、MJIIT 准教授原啓文、2列左から右2人目：文責；杉浦則夫